

オオクチバス幼魚、未成魚の駆除方法

片野 修（中央水産研究所）

1999 年から水産庁の外来魚抑制管理技術開発事業の 1 課題を担当し、長野県上田市周辺の 3 ヶ所の外来魚生息地においてオオクチバスの駆除に取り組んでいます。成魚については、私が開発したかけ上がり三枚網（長さ 3 m、幅 0.8~1.1 m）と生き魚を用いた釣りを中心に駆除し、いずれの生息地でもその個体数を 3 年で 10% 以下に減らすことに成功しました。一方、成魚が減るとともに、幼魚、未成魚が目立つようになり、これらをいかにして効率的に駆除するかが課題となってきました。そこで、今年度は生きエビを用いた釣りのほかに、中網目を 1 寸もしくは 1.5 寸に設定したかけ上がり三枚網と市販のアイカゴを用いて幼魚、未成魚の捕獲を試みました。釣りにおいて、体長 10 cm ほどの幼魚を釣る場合には、バスがエビをくわえてから 25 秒以上待つて呑みこませることが必要であることがわかりました。かけ上がり三枚網は、ブルーギルなどの他魚が少ない場合には 2~4 日放置すると効果的であり、最多の場合 1 網で 30 尾のバスを捕獲することができました。アイカゴは遮光ネットをかけずに設置し、最も多い場合には 1 個のカゴで 50 尾のバスを捕獲しました。このほかアイカゴを水草のない溜池に設置し、1 週間ほど置くと、多数のブルーギルのほかに体長 30cm を超えるオオクチバスがよく獲れることがわかりました。オオクチバスはブルーギルを捕食するためにアイカゴに入ると考えられます。幼魚、未成魚を捕獲するコツは障害物の周りなど、これらが群れる場所に網やカゴを置くことにあり、群れているからこそ成魚に比べて効率的に駆除できると考えています。